

角田市学校の適正規模等（学校再編・統合）に関する基本構想「第3次行動計画構想」の 具体化に向けた取り組みについて（中間とりまとめ）に係る意見募集（パブリックコメント）実施結果

1 目 的

角田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）では、角田市学校適正規模検討委員会（以下「検討委員会」という。）における学校再編・統合の議論等を踏まえ、『角田市学校の適正規模等に関する基本構想「第3次行動計画構想」の具体化に向けた取り組みについて（中間とりまとめ）』を調製し、今後、教育委員会としての最終方針を策定するにあたり、当該方針に市民等の皆様からのご意見等を反映させるため、意見募集（パブリックコメント）を実施したものです。

2 意見募集（パブリックコメント）実施結果

募集期間	令和6年12月27日（金）から令和7年1月31日（金）まで
提出方法	直接持参、郵送、FAX、電子メール、Webフォームへの入力
提出者数	2人（直接持参：1人 FAX：1人）
提出件数	7件※

※提出件数につきましては、お一人で複数の意見をお寄せいただいた方もいらっしゃいましたので、提出者数よりも多くなっております。

3 意見に対する角田市教育委員会の考え方の区分

- ア 角田市学校の適正規模等に関する基本構想「第3次行動計画構想」の具体化に向けた取り組みについて意見を反映するもの
- イ 意見の趣旨を踏まえ取り組みを推進するもの
- ウ 今後の参考とするもの
- エ その他（今回の意見募集の趣旨・範囲と異なる意見など）

角田市学校の適正規模等(学校再編・統合)に関する基本構想「第3次行動計画構想」の具体化に向けた取り組みについて(中間とりまとめ)に係る
意見募集(パブリックコメント)実施結果

	項目等	区分	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
1	全般的事項	イ	将来にわたり、人口減少・少子化が進行していることから学校の適正規模を勘案しての学校再編・統合を進めるのは、やむを得ない判断だと思う。	人口減少・少子化の進行と学校施設の老朽化等を考慮すると、次世代を担う子どもたちの教育環境を整備し、その質的充実を図るためには、学校の再編・統合を進める必要があると考えております。 今後とも、教育委員会では、児童生徒・保護者・地域住民の皆様のご理解を得られるよう、説明責任を果たしながら、丁寧に進めてまいります。
2	5. 保護者等アンケートの結果	ウ	「第1次行動計画」、「第2次行動計画」を実行してきたが、実行した結果、どのような状況になっているのか。保護者や児童生徒からのアンケートをとるなどして示していただきたい。今後の学校再編・統合を進めるうえでの検討材料になる。	教育委員会では、検討委員会における議論の基礎資料とするため、令和6年5月に保護者等を対象としたアンケート調査を実施しており、その中で、回答者の属性や学校の適正規模等に関する質問に加え、令和3年度以降に学校再編・統廃合を実際にご経験された保護者等に対して、再編・統合の前後でお子様にどのような変化があったかを問う質問等も設けております。 当該アンケートの調査結果については、第3回検討委員会において、委員の皆様にご説明させていただいているほか、下記のとおり、角田市のホームページに掲載しておりますので、ご覧いただければと存じます。 『第3回角田市学校適正規模検討委員会』 https://www.city.kakuda.lg.jp/site/tekiseikibo/19071.html 

	項目等	区分	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
3	7.「第3次行動計画構想」のさらなる具体化に向けて	ウ	保護者等アンケート結果にもあるが「学校の適正規模・適正配置を検討する上で配慮すべき点は」では『児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全』が一番多い結果となっている。通学路の安全性については勿論のこと、スクールバスの利便性と利用する場合の条件等が知りたい。 通学距離について国は「おおむね小学校4km以内、中学校6km以内」と謳っている。この距離は守れるのか。	通学距離を小学校で「概ね」4km以内、中学校で「概ね」6km以内とする国（文部科学省）の基準については、「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条第1項第2号」に規定されております。また、通学時間については、国（文部科学省）の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」において、「概ね」1時間以内と定められております。いずれも「概ね」とあるように、国（文部科学省）においては、地域の実情や児童生徒の実態等に応じて、自治体が個別に通学距離や通学時間の基準を決めるべきものとしております。教育委員会では、学校の再編・統合に伴い通学距離が長くなった児童生徒の登下校の安全性や身体的な負担を軽減するため、スクールバス等を運行しており、通学時間が1時間以内となるような対応を行っております。 なお、通学路の安全性については、平成25年12月に「角田市通学路交通安全プログラム」を策定し、通学路の交通安全対策を継続的に実施しております。

	項目等	区分	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
4	7.「第3次行動計画構想」のさらなる具体化に向けて	イ	学校再編統合にあたっては、財政状況等を考慮することを理由とすることは分かるが、第1次行動計画、第2次行動計画の実行においては、長寿命化対策等で既存の施設を利用して財政負担をかけない方法を取ってきたようだ。耐用年数を経過した施設では、安全で安心できる教育環境と言えるでしょうか。子ども達の生命は、角田（日本）の宝である。今後の検討において、財政のことは別にして、施設新規設置を前提に検討していただきたい。	学校の建替えには相当の費用がかかりますので、角田市の限られた財源の中では、全ての学校を建替えることは現実問題として不可能だと考えます。 「角田市学校施設個別施設計画（長寿命化計画）」策定時に行った健全性評価では、いずれの学校も十分な耐震性は確保されており、適切な長寿命化改修等を施すことにより、耐用年数を超えて使い続けられるとの評価を受けておりますので、今後に残る学校については、長寿命化改修等により、既存の施設を活用し続けることも選択肢の一つとなります。

	項目等	区分	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
5	7.「第3次行動計画構想」のさらなる具体化に向けて	イ	「角田小学校と横倉小学校の再編・統合について」の付帯意見に記載されている通学区域の見直しについて、保護者等アンケート結果からも読み取れるが、横倉小学校を無くしたくない気持ちが強く感じられる。通学区域の見直しは一時しのぎに過ぎず、人の奪い合いになって、しこり（私見）が残り良いことでは無いと思う。地元民の理解を得ることを条件に複式学級を実行し、その後、少子化が進行してどうしようも無くなった時点で「（仮称）第4次行動計画構想」で再編統合を検討するということで如何なものか。	検討委員会においては、角田小学校と横倉小学校の再編・統合について、今後も児童数の減少が見込まれるとともに、令和12年度に過小規模校（複式学級のある学校）に移行することが予想されることから、再編・統合を行うものとされましたが、その再編・統合を行う時期については、今後の社会増等により複式学級が解消される可能性も否定できないことから、令和9年度までに検討委員会を再度設置し、今後の児童数の推移を確認の上、最終判断するものとされました。 教育委員会としましては、当該検討委員会の判断を尊重し、令和9年度までに設置する検討委員会の中で、その時点での児童数の推移に加え、両地区の保護者や地区住民等のご意見等もしっかり踏まえながら、再編・統合を行う時期について、丁寧な議論して参りたいと考えております。

	項目等	区分	意見等の趣旨	角田市教育委員会の考え方
6	7.「第3次行動計画構想」のさらなる具体化に向けて	ウ	角田小学校と横倉小学校の統合がほぼきまっているようですが、私は反対です。別な方法があります。角田小は現状のままで良いと思っています。角田市が縮小するだけだと思っています。中島工業団地がある桜地区を活性化する為にも、また、江戸時代に「倉」で横倉と佐倉は密接なつながりがあったと聞いています。阿武隈急行の横倉駅・岡駅を活用するためにも、横倉小・北郷小・桜小の3校を統合した方が角田市を変化させる為にも良いのではと思います。ご検討をお願いします。	貴重なご意見として承ります。
7	7.「第3次行動計画構想」のさらなる具体化に向けて	ウ	小学校名称についてのお願い 北郷小・桜小の統合の場合、仮称「北角田小」ではなく「角田北小」とすべきと思っています。角田市は田舎であり、「北角田小」では、より田舎に捉えられます。角田市を活性化するため為にも、元気にする為にも「角田北小」にした方が良いと思います。ご検討ください。 ※事例：岩沼市は「岩沼小」「岩沼南小」だと思います。	貴重なご意見として承ります。